

みんぱく 私の逸品 百貨店店員用制服(ワンピース)

標本番号 H0235162
地域 日本
受入年 2005年
特別展 今和次郎 採集講義―考現学の今―
にて展示中

大阪樟蔭女子大学教授

高橋 晴子

民博の収蔵庫には二五〇〇点以上にのぼる田中千代コレクションがある。そのうち、「衣服・アクセサリーデータベース」を利用して、「制服」ということばで検索すると二〇六点がヒットする。デザイナーであり、日本の洋装教育の礎を築いた田中さんは、生涯をかけて民族服収集にも力を注いだ。そのなかの約八パーセントが、職場や学校の制服という事実は大きい。戦前のパートの店員さんの制服などのほかに、アフリカ東部モザンビークで収集した女子のブラウス型の制服もある。現地で衣服を収集する場合、一般に尊重されるのは濃厚な「民族服風」色調の、手縫いの衣服である。多くの地域では、それはそれとして大事にされてはいても、もう日常の衣服ではなくなっている。田中千代の目はその現実を見ていたのだ。

おなじ目が、若き日の今和次郎にもあった。大正中期から昭和初期にかけての、断髪に短いスカートのモダンガールの跳梁を、今私たちは「アサヒグラフ」などで見ている。銀座通りはまるでこんな女性たちであふれていたよう……。しかし今和次郎と吉田謙吉のクールな目は、あの考現学調査によって、そんなモダンガールはごく少数派だったことを証明した。

さて、田中千代コレクションの制服のなかでも、目をひくのが大丸百貨店エレベーター係の薄茶色の制服である。胸を飾る左右対称につけられた一〇個の金ボタンと茶色の縁取り。側面にある幅広のベルト通しにも同じ金ボタンの飾りがついている。襟と折り返された袖口にも茶色の縁取りがあり、軍服のように堂々としている。この制服の持ち主の勤務先は、古くから今の地にある心齋橋店だったのだろうか。近代的なデパートメントストアでモダンな制服を着て、それこそショートカットにハイヒールを連想させる彼女は、さぞかし鼻が高かったろう。ただ、彼女とともに働いたこの制服に、裾あげの跡が認められて、その後の、モノのない時代のことを考えると、いろいろな思いが頭をよぎる。



「衣服・アクセサリーデータベース」には、みんぱくに所蔵されている衣服・アクセサリー標本資料の詳細分析情報、および各地域のフィールド写真が収録されています。服飾の用語や地域など、さまざまなキーワードに対応しています。